

93%と若干福岡で高かった。生徒の年齢が17歳以下が99%を占めた大阪では前55%、後65%と最も低く、「わからない」も前45%、後35%と最も多かった。17歳以下が76%の北海道では「16歳以上なら可」以上は資料提供前後ともに70%強と変化はみられなかったものの、賛成比率は愛知とほぼ同率であった。「やるべきでない」が4県すべてで0%であった。これは成分献血の有用性を是認しているとも取れるが、400mL献血の導入での「わからない」の回答(9%~33%)に比べて、北海道の資料提供前(27%)を除くすべてで高率(12%~45%)であることより、成分献血についてよく認知していないために「わからない」と回答しているとも考えられる。

献血非実施校における「16歳以上なら可」以上では、400mL献血導入の回答とほとんど同様な傾向を示した(資料提供前46%~61%、資料提供後65%~75%)。大阪は献血実施校(資料提供前55%、後65%)に比べ献血非実施校(資料提供前61%、後75%)で成分献血是認の傾向がみられた。

教諭・父母においても400mL献血の回答と同様な傾向を示し、教諭での大阪(資料提供後で77%)、父母での福岡(資料提供後で75%)において、「体重等の基準を満たしていれば、やってもよい」とした割合が高く、教諭での愛知(8~16%)及び北海道(11%)、父母での北海道(8~17%)において「やるべきではない」とした割合が高かった。(図14)

11) 献血実施校の高校生における400mL献血及び成分献血導入の意向
400mL及び成分献血導入の意向を、200mL献血に協力した高校生(129名)と400mL献血に協力した高校生(206名)で比較してみると、両者において400mL及び成分献血導入に対して、ほぼ同じ傾向がみられた。「やってもよい」が最も多く、献血前の200mL献血協力生徒で400mL及び成分献血導入とともに約60%、400mL献血協力生徒とともに約50%前後であった。献血後では200mL献血協力生徒で400mL及び成分献血導入とともに71%、400mL献血協力生徒とともに約60%前後で、献血後に増加している。次いで「わからない」が多く、400mL献血導入については、200mL献血生徒で献血前21%~献血後10%、400mL献血生徒で前30%~後20%と、ともに献血後に減少した。この傾向は成分献血導入についても同様で、200mL献血生徒で前22%~後12%、400mL献血生徒で前36%~後28%と献血後に減少した。400mL献血協力生徒において、400mL献血導入を「やるべきでない」の意見も献血前2%であったが、献血後には0.5%に減少した。全体的に200mL、400mL献血に協力した高校生は、献血体験に加え資料を読むことで400mL献血及び成分献血導入への理解を深めていることが伺えた。(図15)

D. 考察

今回の調査では、当事者である高校生を献血実施校と非実施校に分けて調査し、さら

にその身近な存在である教諭と父母に対しても同様に調査を行った。

献血に対する認知度は高校生、教諭、父母を問わず非常に高く、教諭・父母の献血経験についても、昨年の調査結果と同様に高い割合となっており、これまでの献血推進への取り組みの成果であると言えるかもしれない。

献血に関する関心は、「やや関心がある」を含めると、昨年の調査結果と同様に高いと言える結果であったが、「関心がある」に限定した場合、その割合は資料提供前で17～51%（平均34.3%）、資料提供後で22～46%（平均35.3%）であった。今後の献血への啓発のあり方を検討することによって、さらに関心度の向上が期待できると考えられる。なお今回の調査では、教諭及び父母において資料提供後の関心度の低下が認められたが、これは、設問の解釈に差異が生じたための誤差であると考えられる。回答者が元来献血に対して高い関心を持っている場合、提供された資料を読んでも、もともとの関心が高いために資料提供前後で特に変化せず、回答として「どちらともいえない」を選択することや、献血に対する関心は高いものの資料を読むことで変化したかどうかについては「どちらともいえない」と回答するケースなどが考えられる。このような回答者は、献血に対しては関心があるが、資料を読んだことでその関心度合いが変化したかどうかについて「どちらともいえない」と回答しているとも考えられ、資料提供により関心度自体は低下していないと思われる。実際に資料提供後において、「関心がある」、「やや関心がある」と答えた回答者の1、2割が「どちらともいえない」

と回答していることから、こうした推測が成り立つと考えられる。

その他の項目においては、資料提供後においては献血に対する肯定的な意見の割合の上昇が認められている。特に高校生においては、献血への関心の高まり、献血に対するマイナスイメージの低下、献血に対する協力意向の上昇等、献血の実体験や情報の入手により、高校生の献血に対する考え方は明らかに肯定的な方向へと導かれていると考えられる。すなわち、今回の調査においても、昨年の調査結果と同様に、献血経験の機会の提供や献血に関する啓発活動が、献血に対する理解と知識の普及にとって有用であり、また必要なものであることが示唆されたと言える。

出張採血については、概ね賛成されていると考えられる結果となったが、献血非実施校の高校生においては反対意見も2割程度を占める結果となっている。しかし、実際に集団献血を体験している献血実施校での賛成者の割合が高いこと、献血をはじめのきっかけとしてある程度認知されていること、献血会場として希望する声が多いこと等を考慮した場合、出張採血はこれまで以上に重要な役割を担うことになると考えられる。大坂ら³⁾は高校生時代に初回献血をした人の再献血率は41.6%と極めて高く、高校卒業後の初回献血者10.3%と対象的であったと報告していることから、高校生時代に献血を経験することで将来の献血者に期待を寄せることができる。さらには、献血への関心、献血への協力意向について、献血実施校と非実施校の結果を比較した場合、前者の生徒において高い数値を示していることから、高校生の献血に対する関心

を高めたり、より多くの高校生に献血へ協力してもらうための手段として非常に有用であると考えられる。

高校生の献血に対する教諭や父母の意見としては、「体重等の基準を満たしていれば、やってもよい」(61~64%)、「本人の判断にまかせる」(38~52%)、「ボランティアなのでよい」(28~43%)などの割合が高く、総じて肯定的であると言える。こうした背景から、今回の調査においては、16-17歳の400mL献血に対して肯定的な意見が高い割合を占めた。特に教諭及び父母においては、「体重等の基準を満たしていれば、やってもよい」とした回答者が、資料提供前で63~64%、提供後で69~70%となっており、昨年の調査結果(51.6%)を大きく上回る結果となった。一方、当事者である高校生については、「体重等の基準を満たしていれば、やってもよい」とする割合は48~64%と、教諭・父母を若干下回るものの、「17歳以上なら可」、「16歳以上なら可」と回答した割合も3~12%の範囲で存在しており、肯定的な意見が半数以上を占める結果となった。特に注目すべき点は、「やるべきでない」とした割合が、当事者である高校生では低く(0~3%)、教諭・父母で比較的高値(7~13%)であった点である。その理由としては、「400mLは多すぎる」、「体が完成されていない成長期の段階であり早すぎる」といった意見が多く、「親の許可が必要」とする意見もあった。成分献血についても同様の傾向が認められ、反対理由としても「体が完成されていない」や「感染がこわい」など安全性に対する懸念が多く

見受けられた。こうした反対意見はあるものの、当事者である高校生の多くが肯定的な意見であり反対意見がほとんどないこと、教諭・父母においては賛成意見の割合が高いこと、反対意見の多くは宗教論や感情論ではなく安全性への懸念であることから、十分な情報の提供によって解決を図れる見解と考えられた。今回の調査結果より、16-17歳における400mL献血及び成分献血について社会に受け入れられる状況にあると判断できる。ただしそのためには、頻回採血における貯蔵鉄の欠乏¹⁾²⁾などへの配慮や、本人の意思確認を徹底するなど、反対意見者の懸念に対する配慮も必要である。今回の調査においては、献血における実体験や啓発活動の重要性、及び出張採血の有用性が示され、16-17歳の400mL献血及び成分献血の導入については、社会的に受け入れられる状況にあることが示された。今後、こうした課題について、社会一般への一層の啓発活動を行うことや若い世代への幅広い献血推進を図ることが望まれる。

文献

- 1)内田立身,他:繰り返し400mL献血の貯蔵鉄量に及ぼす影響. *Japanese Journal of Transfusion Medicine*, 42(5):215-217, 1996.
- 2)内田立身,他:頻回成分献血者の貯蔵鉄. *Japanese Journal of Transfusion Medicine*, 44(1):33-34, 1998.
- 3)大坂道敏,小島健一:将来に向けた献血の採血基準の検討. *Japanese Journal of Transfusion Medicine*, 47(3):573-575, 2001.

アンケートの回収サンプル数(高校生)

		(名)				
対象者		愛知	大阪	福岡	北海道	合計
高校生	献血実施校	100	102	100	44	346
	献血非実施校	113	145	100	65	423
合計		213	247	200	109	769

アンケート回答者の背景(高校生)

	献血実施校(出張採血・有)				献血非実施校(出張採血・無)				合計
	男性	女性	未回答	小計	男性	女性	未回答	小計	
15歳	0	0	0	0	7	6	0	13	13
16歳	7	100	0	107	68	51	0	119	226
17歳	33	26	0	59	102	133	1	236	295
18歳	169	8	0	177	24	29	0	53	230
19歳以上	2	0	0	2	0	0	0	0	2
未回答	0	1	0	1	0	0	2	2	3
合計	211	135	0	346	201	219	3	423	769

本日の献血種類は何ですか。(献血実施校の高校生)

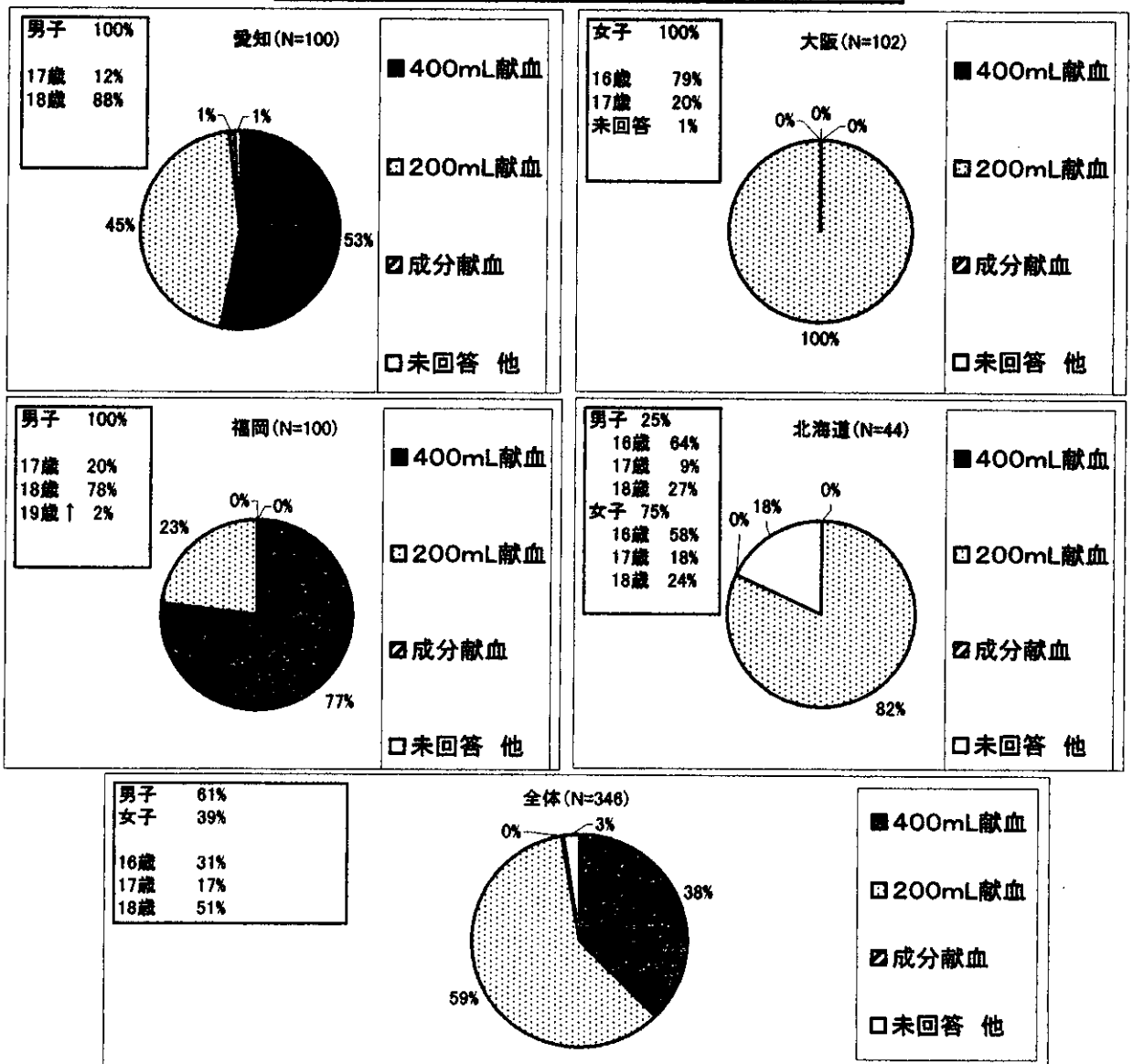


図1-1

アンケートの回収サンプル数(教諭・父母)

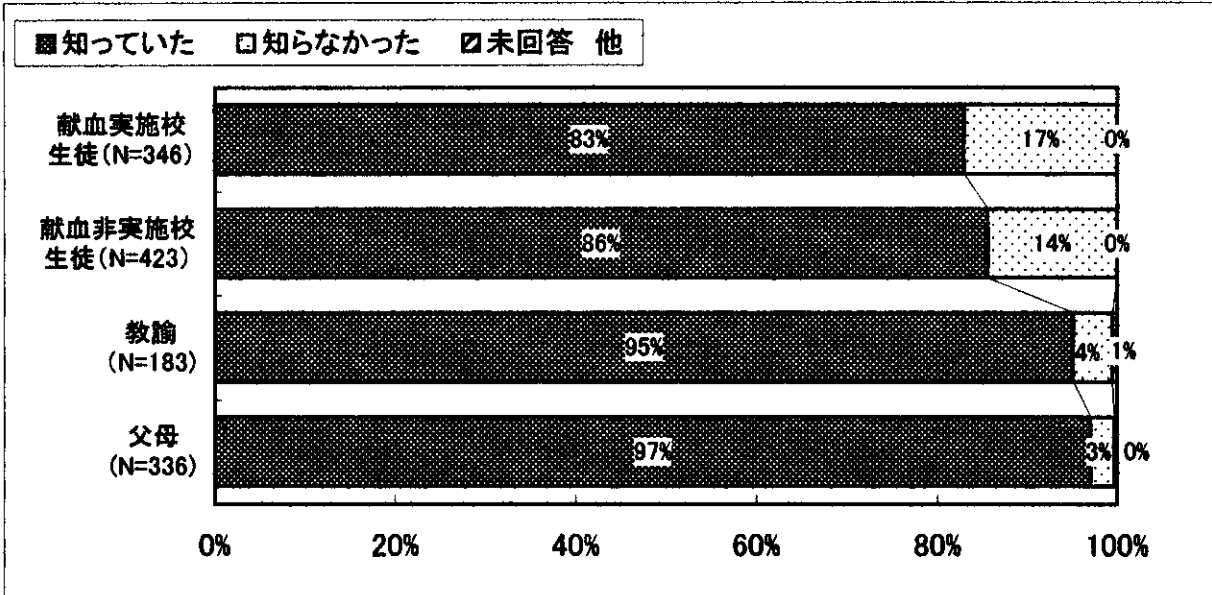
対象者					(名)
	愛知	大阪	福岡	北海道	合計
教諭	52	42	51	38	183
父母	106	97	106	27	336
合計	158	139	157	65	519

アンケート回答者の背景(教諭・父母)

	教諭				父母				(名)
	男性	女性	未回答	小計	男性	女性	未回答	小計	合計
30代	24	16	1	41	1	10	0	11	52
40代	44	15	0	59	30	210	2	242	301
50代	25	14	0	39	17	42	0	59	98
その他	25	14	1	40	1	11	1	13	53
未回答	1	1	2	4	0	5	6	11	15
合計	119	60	4	183	49	278	9	336	519
公務員	40	18	0	58	3	9	1	13	71
会社員	19	11	0	30	33	37	1	71	101
自営業	0	0	0	0	7	23	0	30	30
主婦	0	1	0	1	1	110	0	111	112
パート職員	1	1	0	2	0	76	0	76	78
その他	54	24	1	79	4	13	1	18	97
未回答	5	5	3	13	1	10	6	17	30
合計	119	60	4	183	49	278	9	336	519

図1-2

献血とは、「病気などで血液を必要とする患者さんが、いつでも安心して輸血を受けられるように、健康な人が自発的に血液を提供すること」ですが、ご存知でしたか。



あなたは今までに「献血」をしたことがありますか。

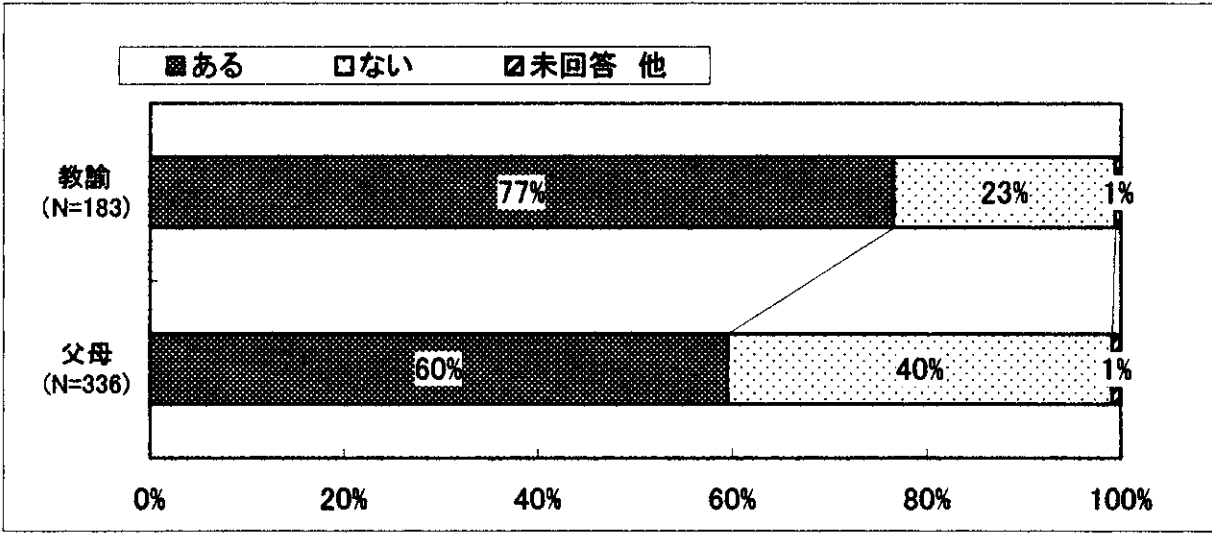
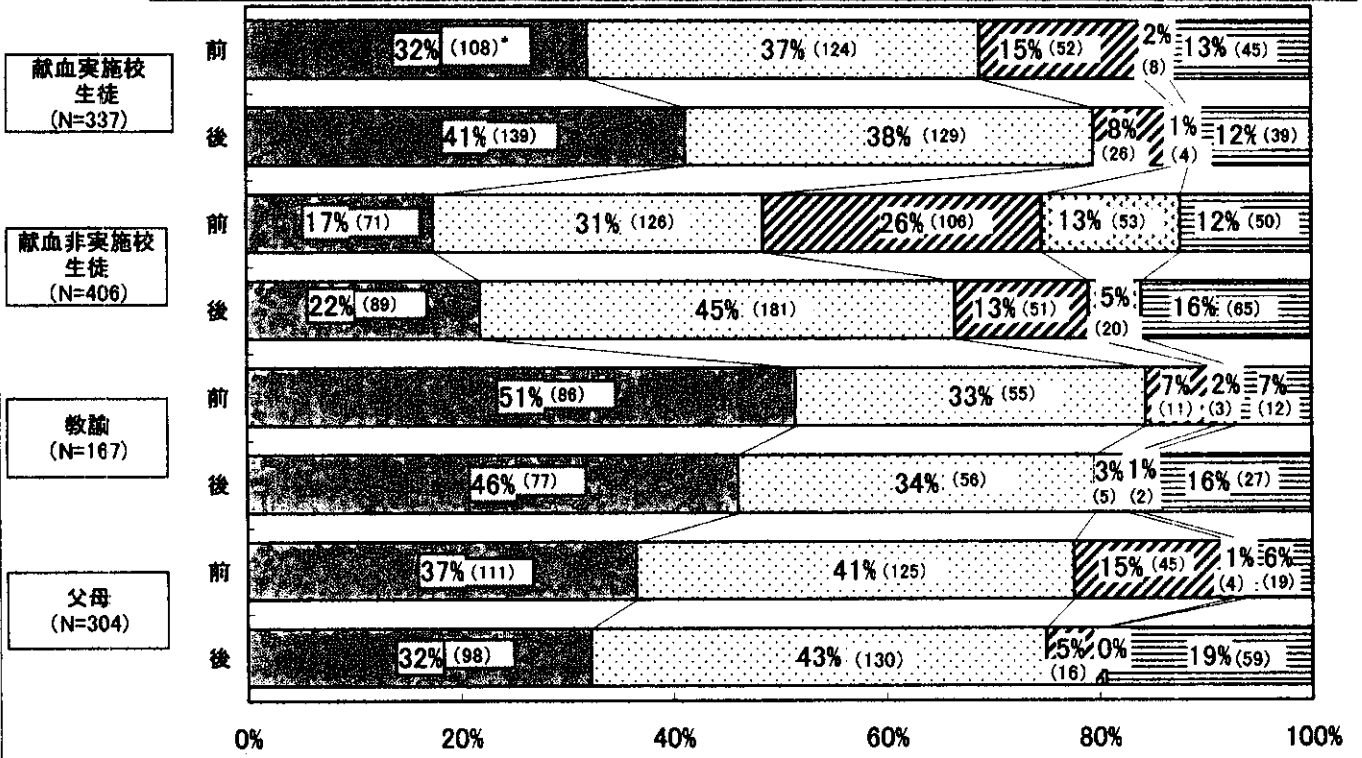


図2

あなたは「献血」に、関心がありますか。

* ()は数を示す

☐関心がある ☐やや関心がある ☐あまり関心がない ☐関心がない ☐どちらともいえない



クロス集計表* <「献血の関心度」における資料提供前・後の意識変化(比率)>

献血実施校生徒		資料提供後					前の合計					
		ある	ややある	あまりない	ない	どちらともいえない						
資料提供前	ある	78	72%	25	23%	2	2%	0	0%	3	3%	108
		56%	19%	8%	0%	8%	100%					
	ややある	46	37%	60	48%	9	7%	0	0%	9	7%	124
		33%	47%	35%	0%	23%	100%					
	あまりない	9	17%	26	50%	8	15%	1	2%	8	15%	52
		6%	20%	31%	25%	21%	100%					
資料提供後	ない	0	0%	2	25%	0	0%	2	25%	4	50%	8
		0%	2%	0%	50%	10%	100%					
資料提供前	どちらともいえない	6	13%	16	36%	7	16%	1	2%	15	33%	45
		4%	12%	27%	25%	38%	100%					
後の合計		139	100%	129	100%	28	100%	4	100%	39	100%	337

献血非実施校生徒		資料提供後					前の合計					
		ある	ややある	あまりない	ない	どちらともいえない						
資料提供前	ある	52	73%	14	20%	0	0%	1	1%	4	6%	71
		58%	8%	0%	5%	6%	100%					
	ややある	27	21%	77	61%	6	5%	0	0%	16	13%	126
		30%	43%	12%	0%	25%	100%					
	あまりない	3	3%	60	57%	26	25%	2	2%	15	14%	106
		3%	33%	51%	10%	23%	100%					
資料提供後	ない	4	8%	10	19%	13	25%	17	32%	9	17%	53
		4%	6%	25%	85%	14%	100%					
資料提供前	どちらともいえない	3	6%	20	40%	6	12%	0	0%	21	42%	50
		3%	11%	12%	0%	32%	100%					
後の合計		89	100%	181	100%	51	100%	20	100%	65	100%	406

教諭		資料提供後					前の合計					
		ある	ややある	あまりない	ない	どちらともいえない						
資料提供前	ある	61	71%	14	16%	1	1%	0	0%	10	12%	86
		79%	25%	20%	0%	37%	100%					
	ややある	13	24%	30	55%	2	4%	0	0%	10	18%	55
		17%	54%	40%	0%	37%	100%					
	あまりない	1	9%	5	45%	2	18%	1	9%	2	18%	11
		1%	9%	40%	50%	7%	100%					
資料提供後	ない	0	0%	2	67%	0	0%	1	33%	0	0%	3
		0%	4%	0%	50%	0%	100%					
資料提供前	どちらともいえない	2	17%	5	42%	0	0%	0	0%	5	42%	12
		3%	9%	0%	0%	19%	100%					
後の合計		77	100%	56	100%	5	100%	2	100%	27	100%	167

父母		資料提供後					前の合計					
		ある	ややある	あまりない	ない	どちらともいえない						
資料提供前	ある	66	59%	24	22%	1	1%	0	0%	20	18%	111
		67%	18%	6%	0%	34%	100%					
	ややある	30	24%	70	56%	3	2%	1	1%	21	17%	125
		31%	54%	19%	100%	36%	100%					
	あまりない	2	4%	22	49%	12	27%	0	0%	9	20%	45
		2%	17%	75%	0%	15%	100%					
資料提供後	ない	0	0%	3	75%	0	0%	0	0%	1	25%	4
		0%	2%	0%	0%	2%	100%					
資料提供前	どちらともいえない	0	0%	11	58%	0	0%	0	0%	8	42%	19
		0%	8%	0%	0%	14%	100%					
後の合計		98	100%	130	100%	16	100%	1	100%	59	100%	304

*クロス集計表の見方

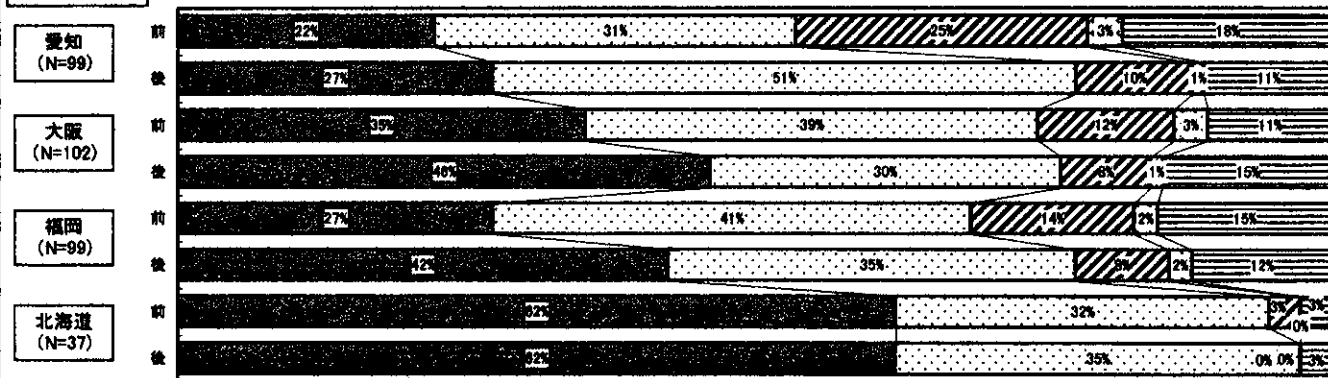
縦%ベースで、「資料提供前」の回答者が「資料提供後」にどのような回答に変化したか、意識変化の比率を示す。
横%ベースで、「資料提供後」の各回答者が資料提供前にどのような回答であったか、その比率を示す。

図3

あなたは「献血」に、関心がありますか。(地域別)

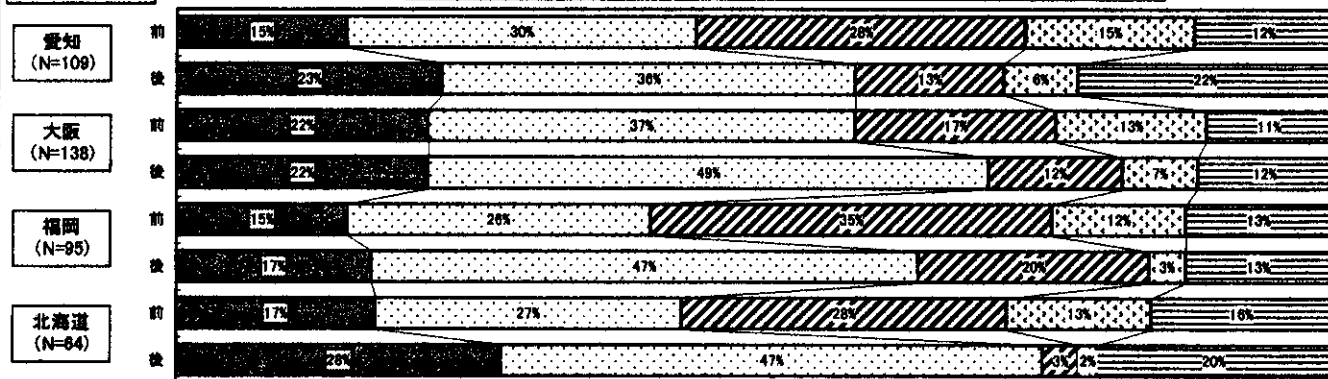
献血実施校
生徒 (N=337)

■関心がある □やや関心がある □あまり関心がない □関心がない □どちらともいえない



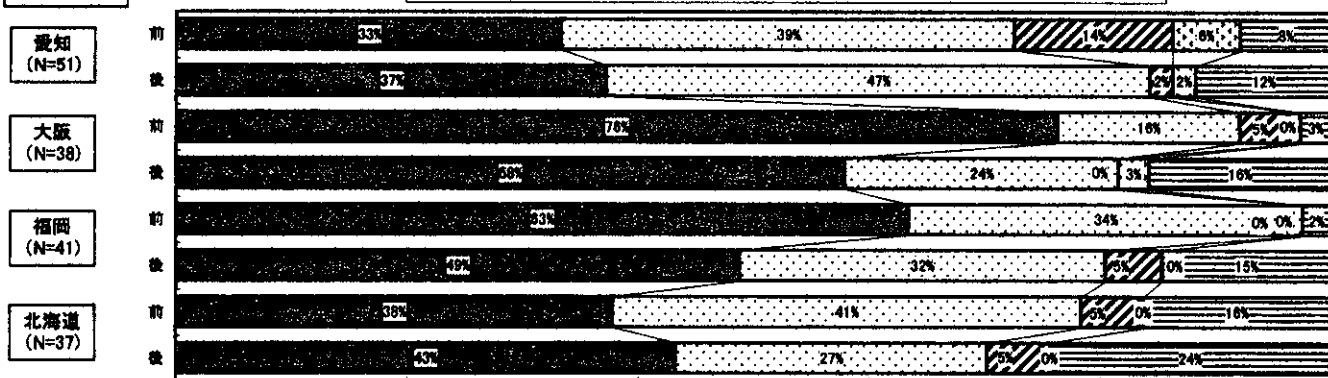
献血非実施校
生徒 (N=406)

■関心がある □やや関心がある □あまり関心がない □関心がない □どちらともいえない



教諭
(N=167)

■関心がある □やや関心がある □あまり関心がない □関心がない □どちらともいえない



父母
(N=304)

■関心がある □やや関心がある □あまり関心がない □関心がない □どちらともいえない

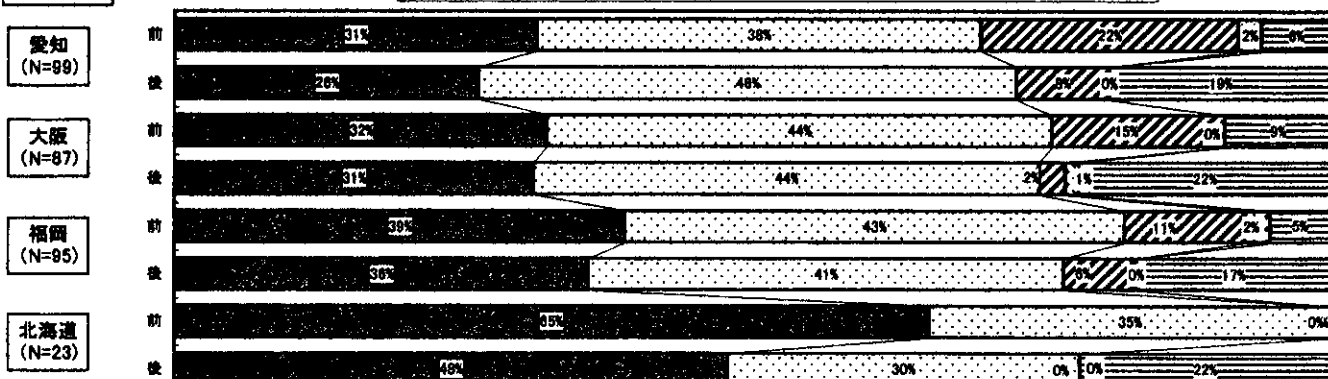


図4

現在、あなたの「献血」に対するイメージはどのようなものですか。当てはまるものをいくつでもお選び下さい。
(複数回答可)

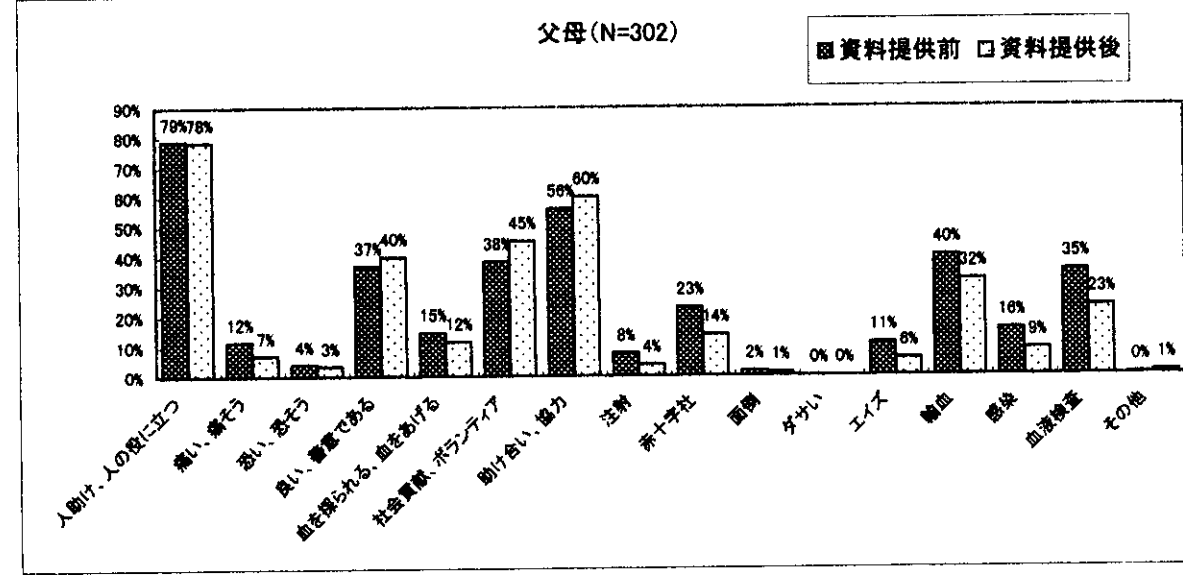
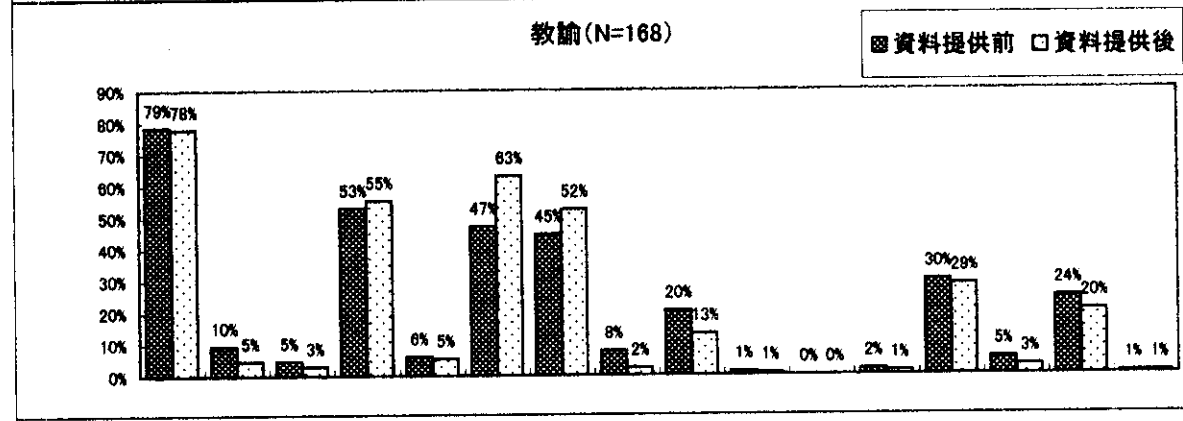
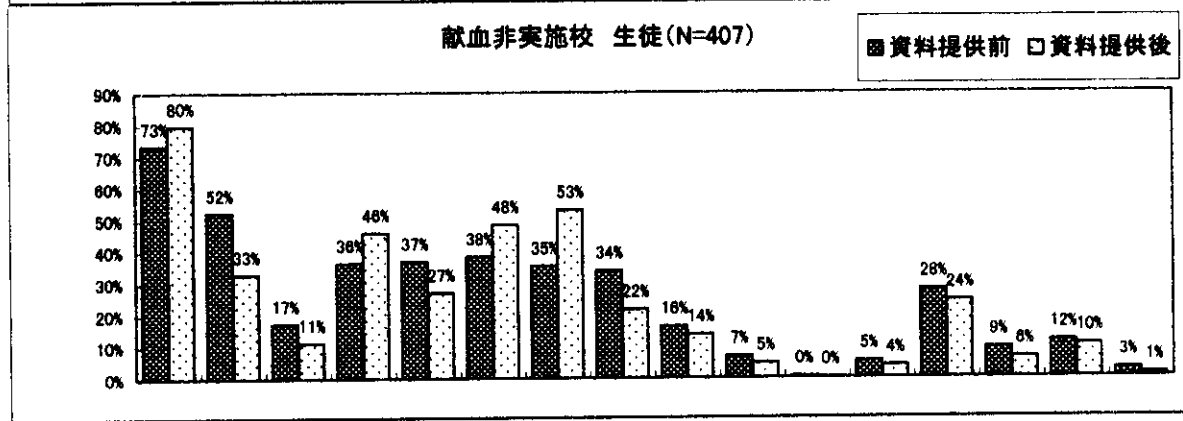
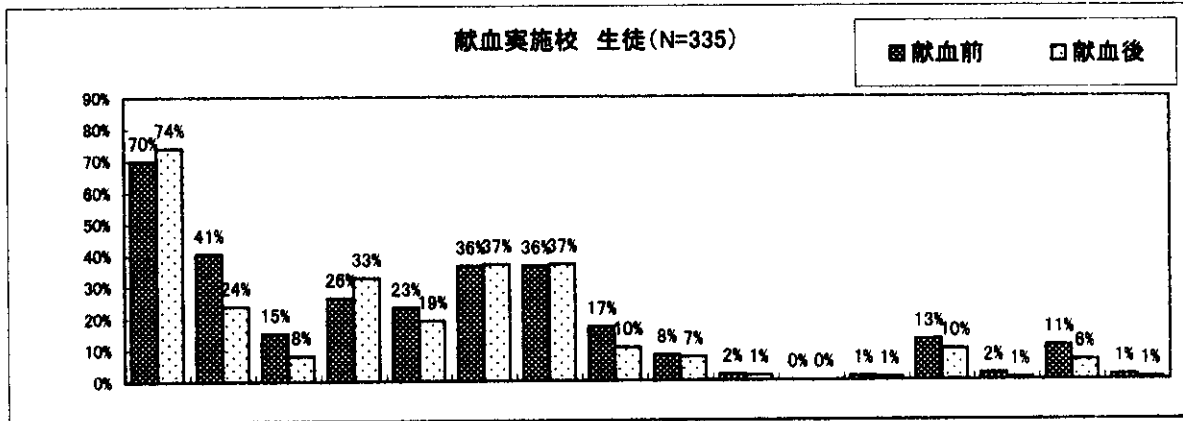
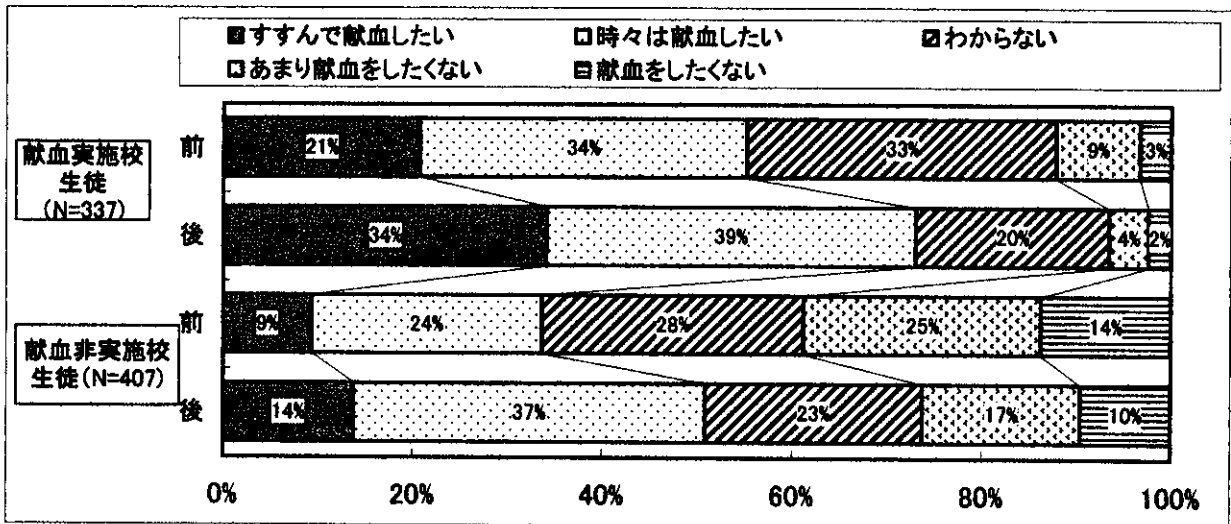
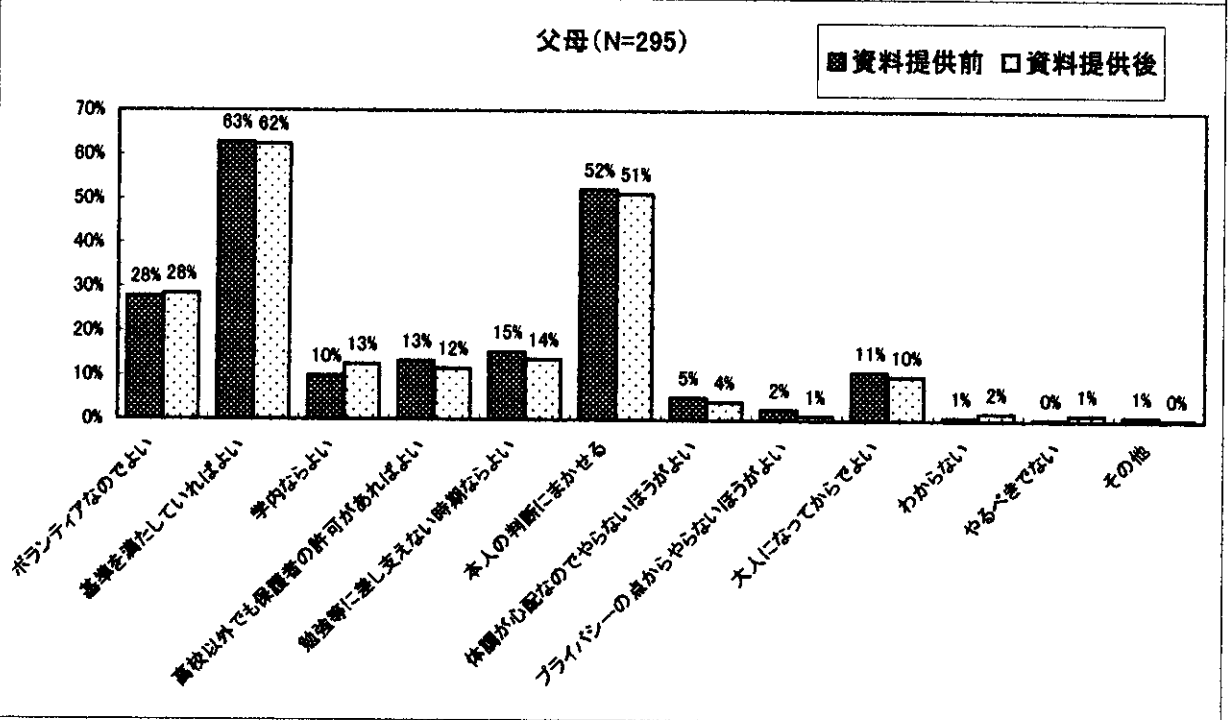
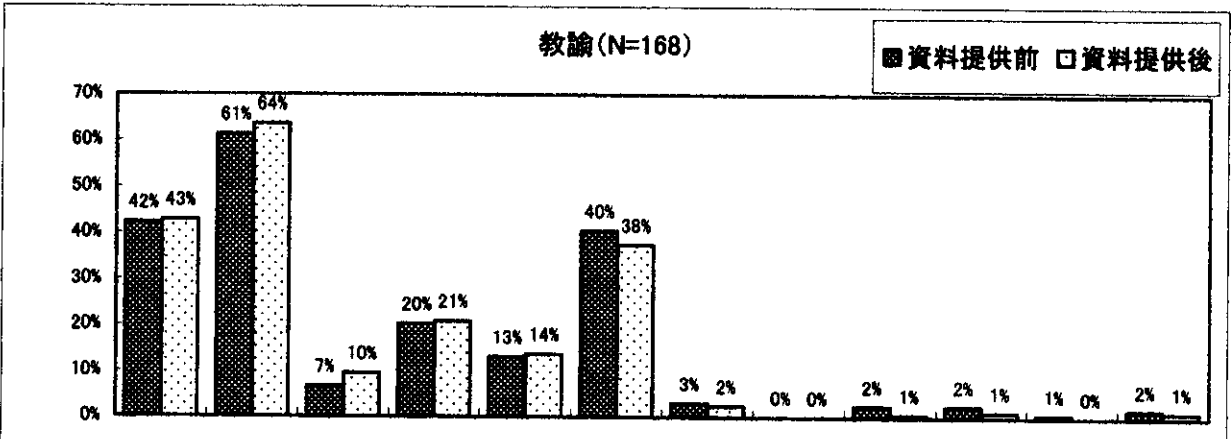


図5
— 27 —

現在、学校や町内会で献血の呼びかけを受けたとき、あるいは街頭で献血バスを見かけた時に、「献血」をしようと思えますか。



あなたは高校生(お子様)が献血することについてどう思いますか。いくつでもお選びください。



あなたは高校生が学内で集団献血(高校に献血バスが来て献血)することをどう思いますか。

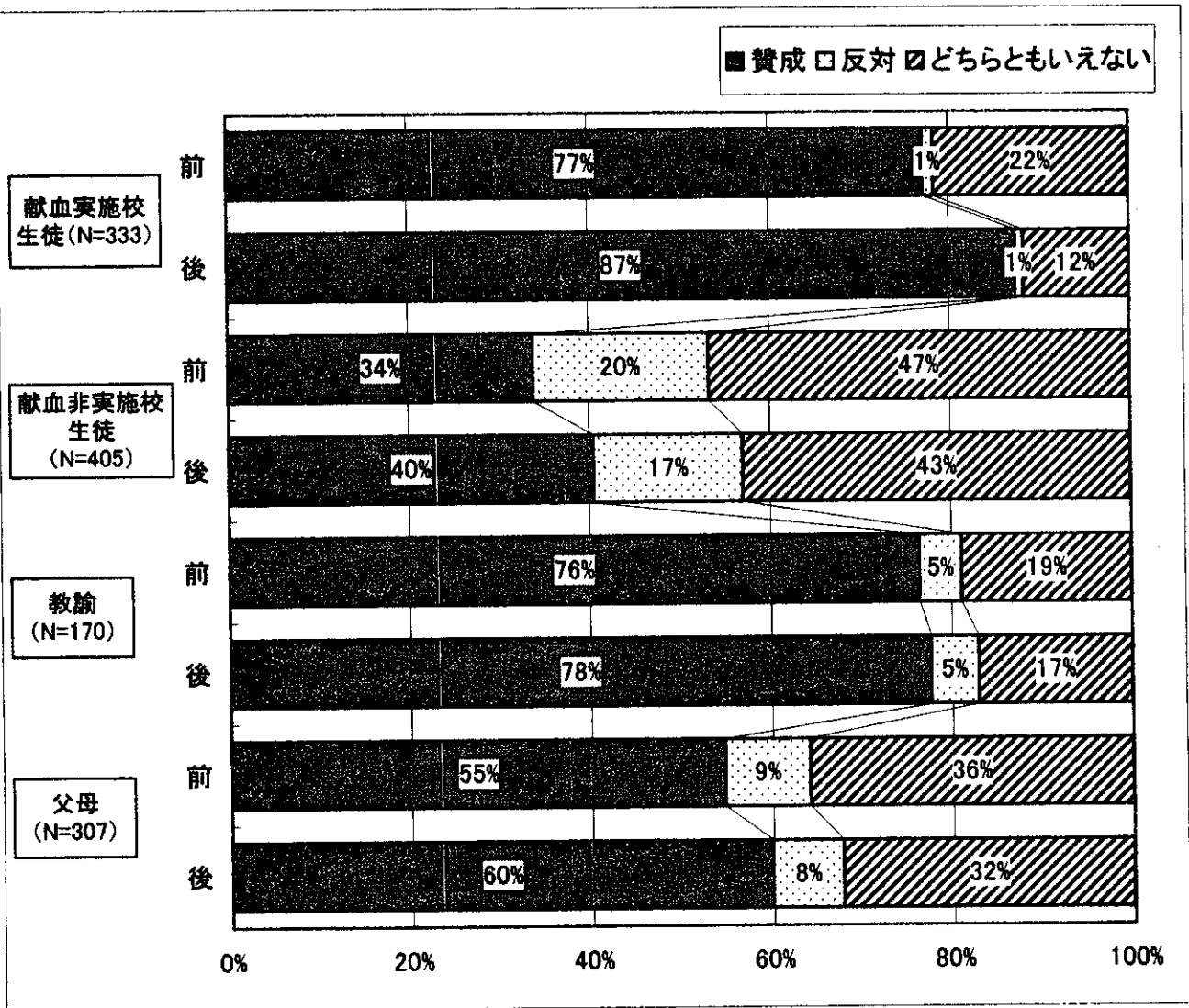
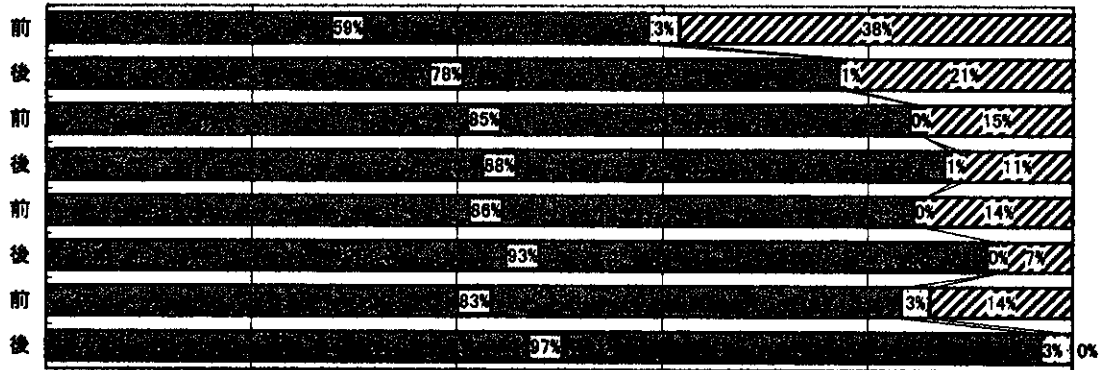


図7

あなたは高校生が学内で集団献血(高校に献血バスが来て献血)することをどう思いますか。(地域別)

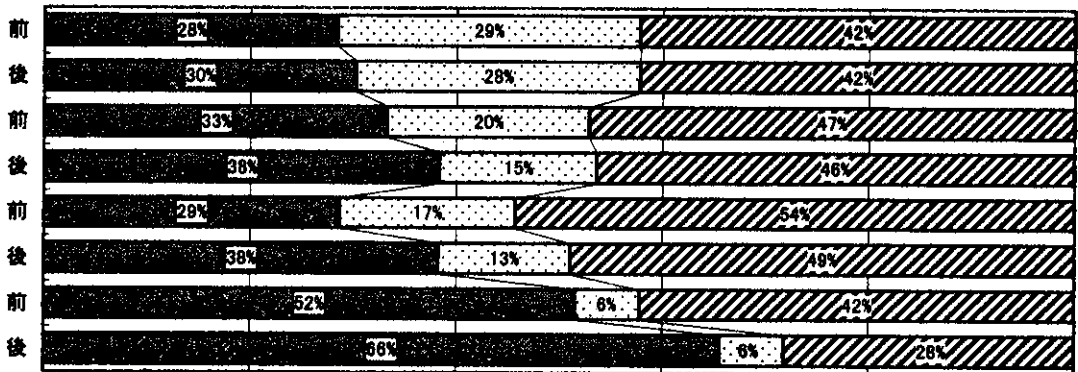
献血実施校
生徒 (N=333)

■賛成 □反対 ▨どちらともいえない



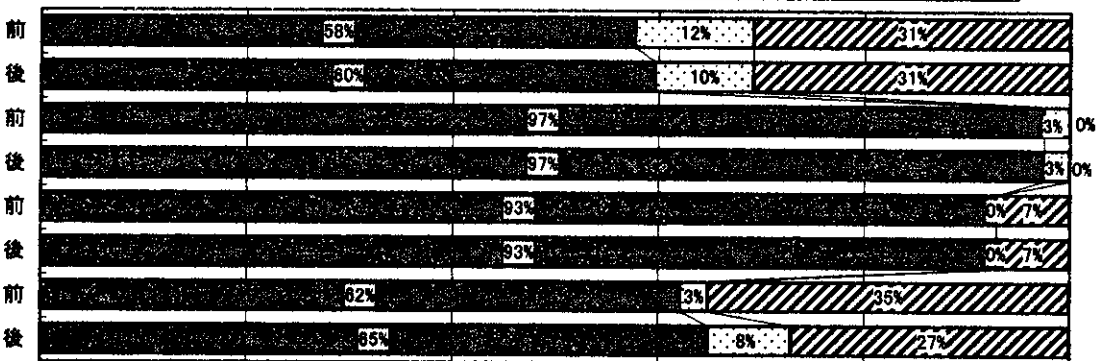
献血非実施校
生徒 (N=405)

■賛成 □反対 ▨どちらともいえない



教諭
(N=170)

■賛成 □反対 ▨どちらともいえない



父母
(N=307)

■賛成 □反対 ▨どちらともいえない

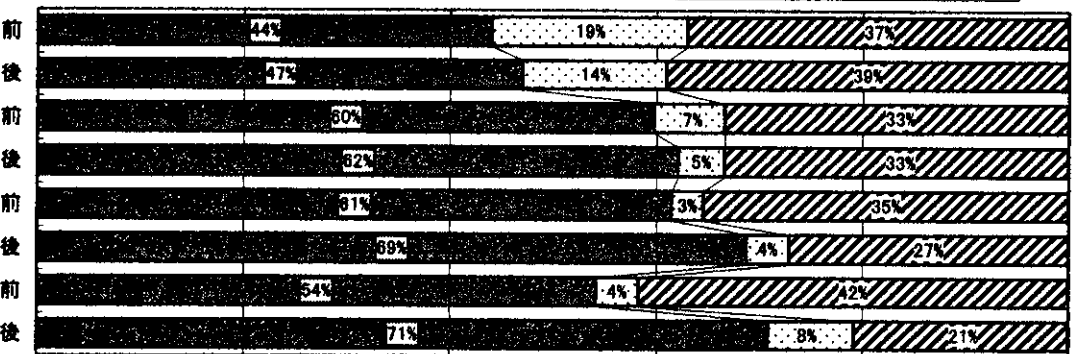
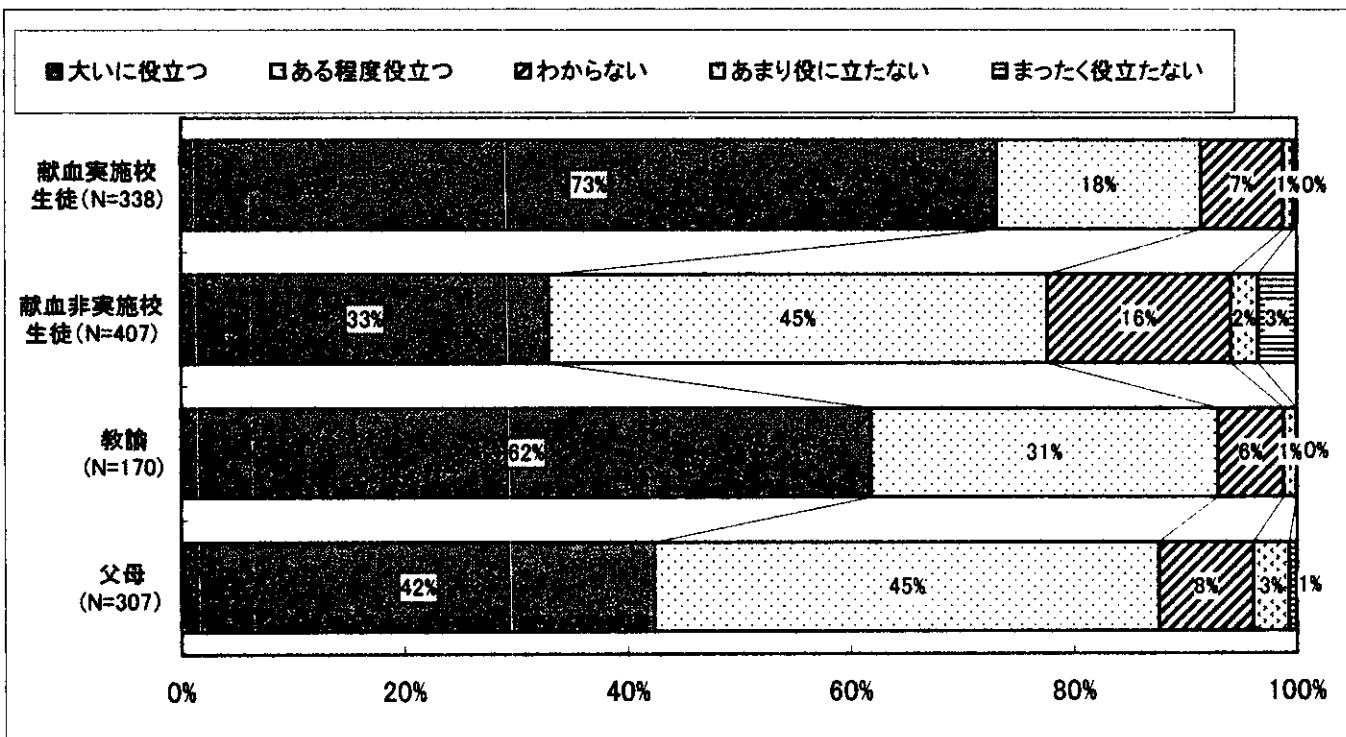


図8

あなたは高校生が学内で集団献血(高校にバスが来て献血)することは、献血をするきっかけとして役立つと思いますか。<献血後又は資料提供後の回答>



あなたはどのような場所に「献血会場」や「献血ルーム」があれば、献血しようと思いますか。当てはまるものをいくつかでもお選びください。<献血後又は資料提供後の回答>

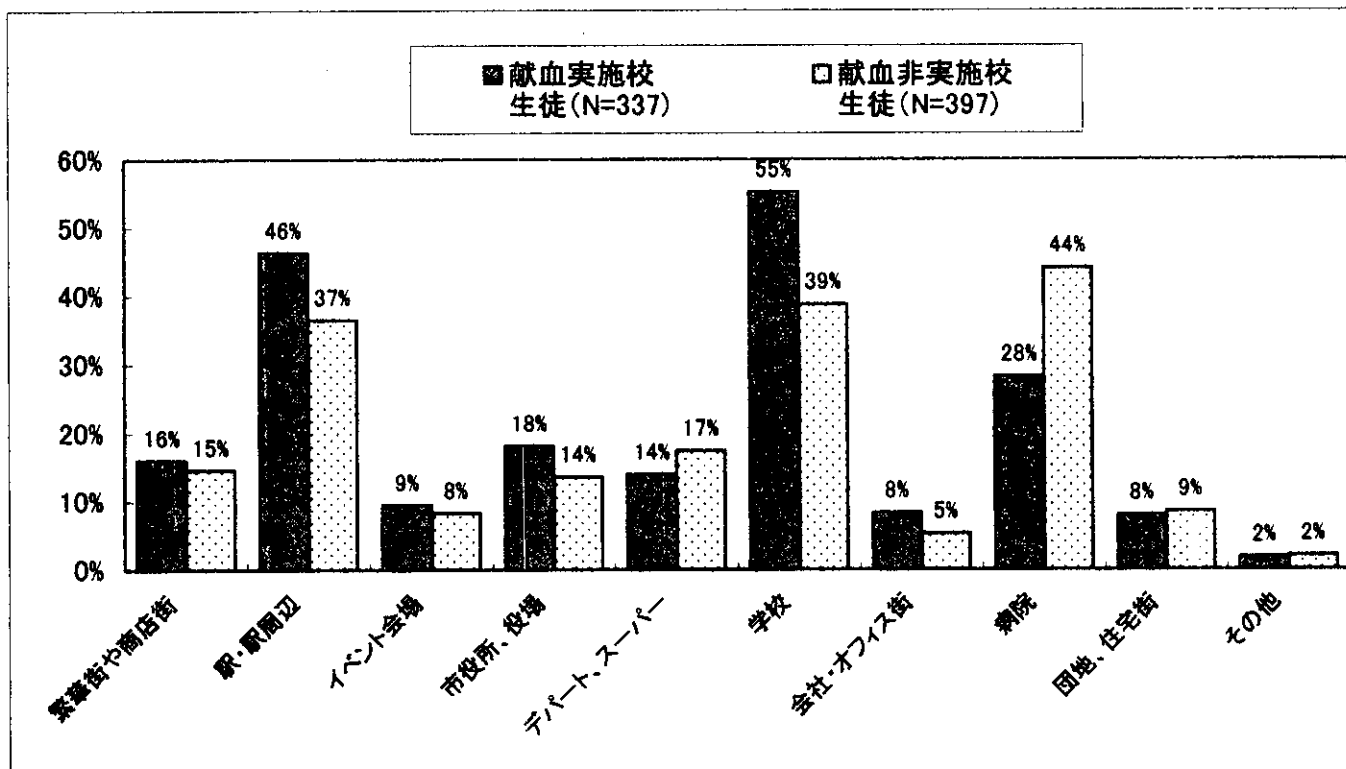


図9

「献血」をしたのはどのようなきっかけからですか。当てはまるものをいくつでもお選びください。
(献血実施校 生徒)

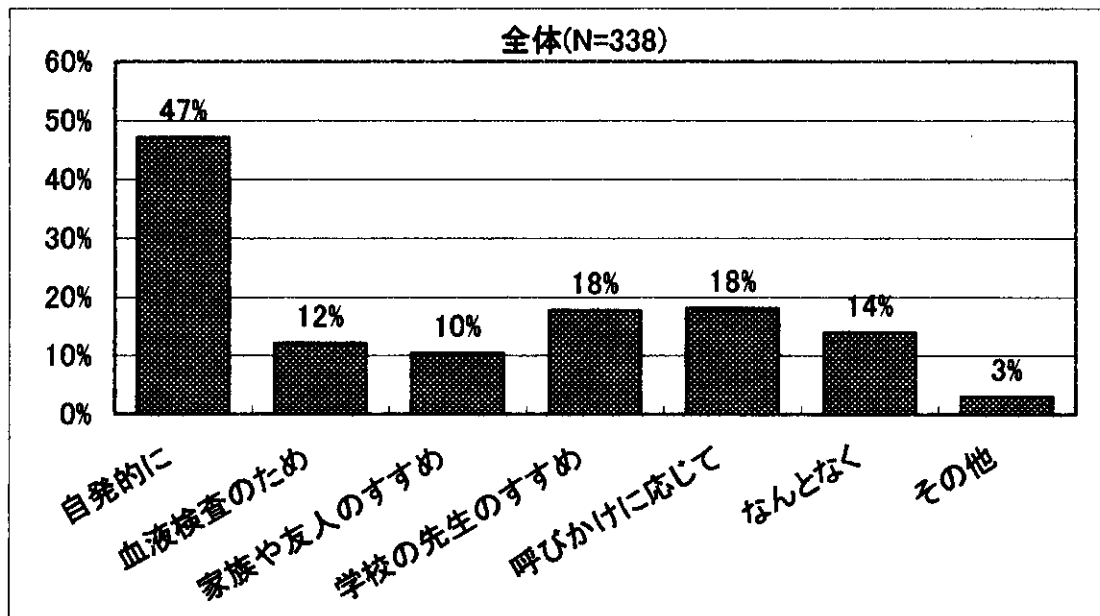
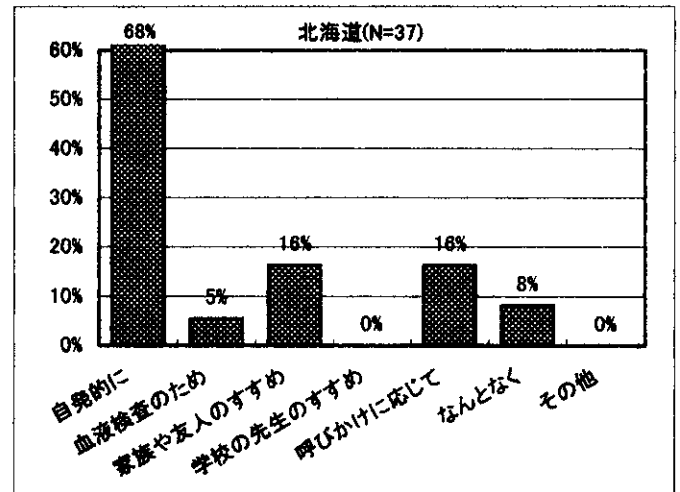
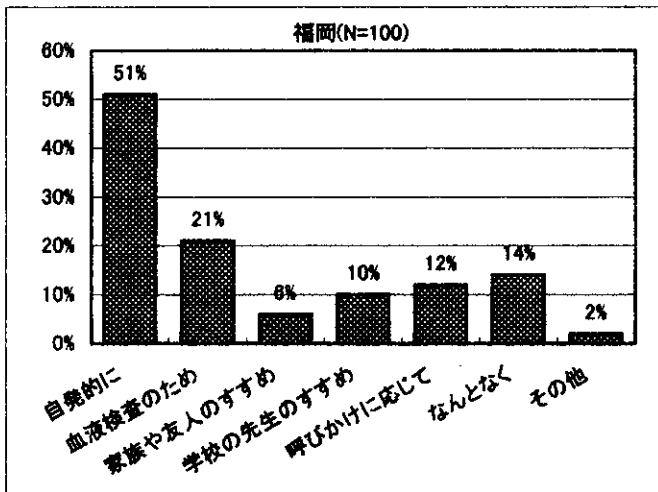
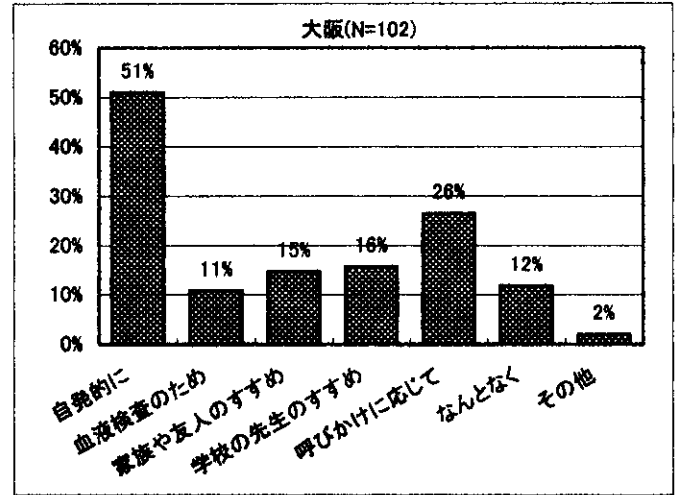
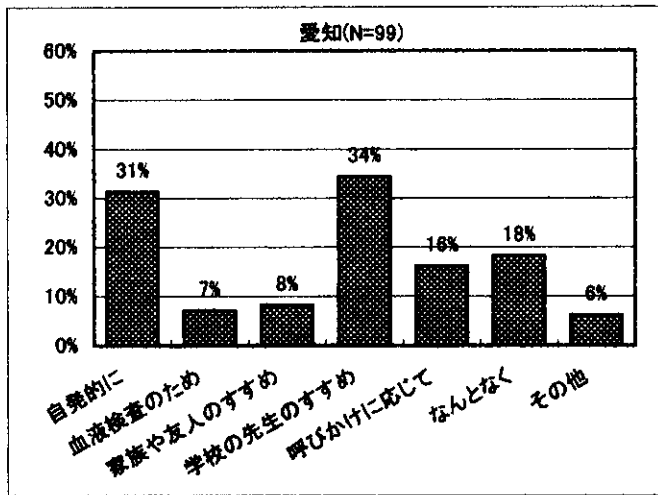
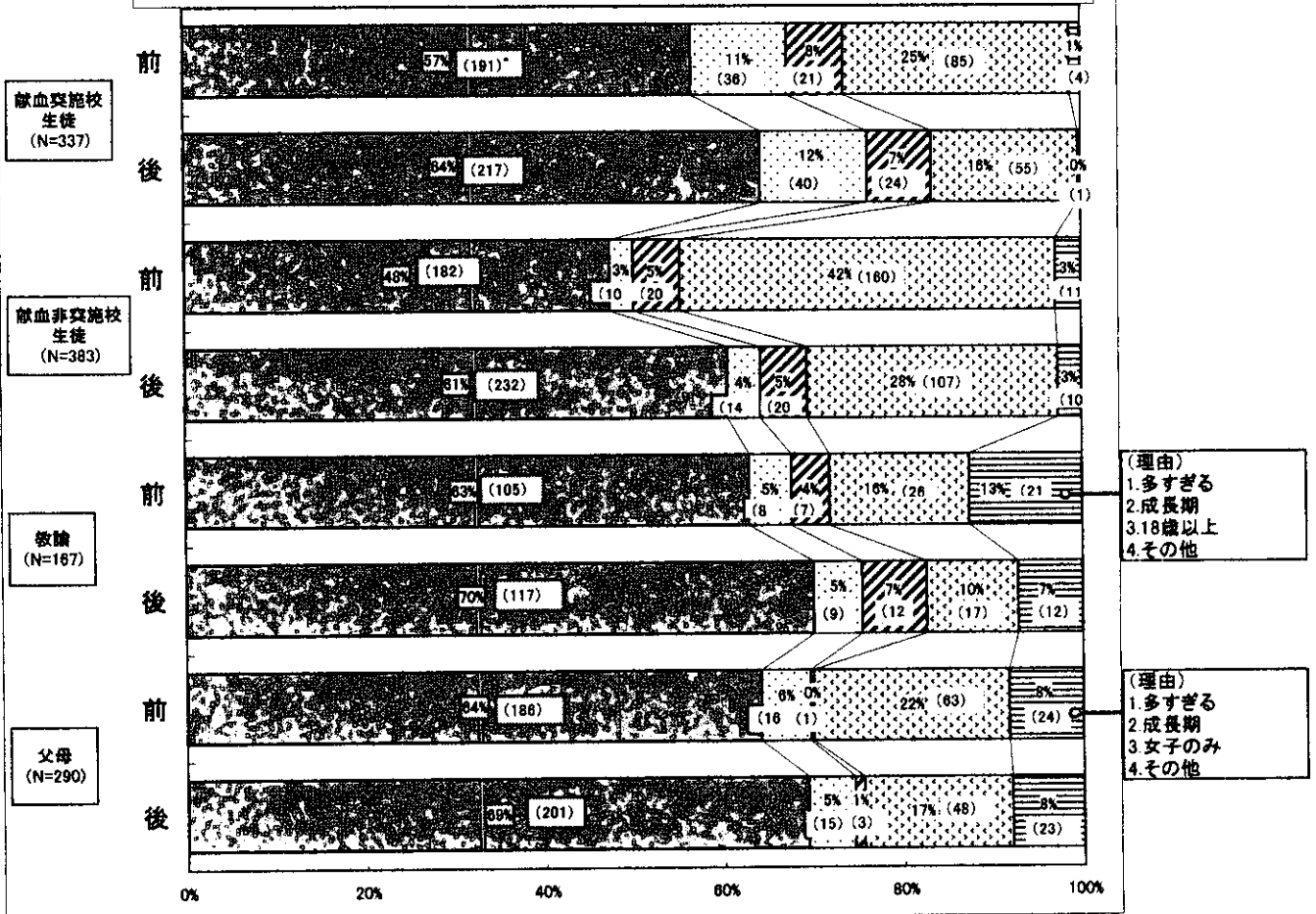


図10

現在、16-17歳の400mL献血導入の是非が検討されていますが、あなたは高校生の400mL献血についてどう思いますか。

* ()はn数を示す

□ 体重等の基準を満たしていればやってもよい □ 17歳以上なら可 □ 16歳以上なら可 □ わからない □ やるべきでない



クロス集計表* <「400mL献血導入の是非」における資料提供前・後の意識変化(比率)>

献血実施校生徒		資料提供後					前の合計					
		体重等の基準を満たしていればやってもよい	17歳以上なら可	16歳以上なら可	わからない	やるべきでない						
資料提供前	体重等の基準を満たしていればやってもよい	175	92%	6	3%	3	2%	7	4%	0	0%	191
	17歳以上なら可	81%	15%	13%	13%	0%	0%	38	0%	0%	38	
	16歳以上なら可	3%	70%	4%	2%	0%	0%	21	0%	0%	21	
	わからない	30	35%	6	7%	6	7%	43	51%	0	0%	85
	やるべきでない	14%	15%	25%	78%	0%	0%	85	0%	0%	85	
	後の合計	217	100%	40	100%	24	100%	55	100%	1	100%	337

献血非実施校生徒		資料提供後					前の合計					
		体重等の基準を満たしていればやってもよい	17歳以上なら可	16歳以上なら可	わからない	やるべきでない						
資料提供前	体重等の基準を満たしていればやってもよい	169	93%	2	1%	2	1%	8	4%	1	1%	182
	17歳以上なら可	73%	14%	10%	7%	10%	0%	10	0%	0%	10	
	16歳以上なら可	3%	14%	0%	1%	0%	0%	20	0%	0%	20	
	わからない	47	29%	10	6%	3	2%	97	61%	3	2%	160
	やるべきでない	20%	71%	15%	91%	30%	0%	160	0%	0%	160	
	後の合計	232	100%	14	100%	20	100%	107	100%	10	100%	383

教諭		資料提供後					前の合計					
		体重等の基準を満たしていればやってもよい	17歳以上なら可	16歳以上なら可	わからない	やるべきでない						
資料提供前	体重等の基準を満たしていればやってもよい	99	94%	2	2%	2	2%	2	2%	0	0%	105
	17歳以上なら可	85%	22%	17%	12%	0%	0%	8	0%	0%	8	
	16歳以上なら可	2	25%	6	75%	0	0%	0	0%	0	0%	7
	わからない	10	38%	1	4%	2	8%	12	46%	1	4%	26
	やるべきでない	9%	11%	17%	71%	5%	0%	21	52%	0%	0%	21
	後の合計	117	100%	9	100%	12	100%	17	100%	12	100%	187

父母		資料提供後					前の合計					
		体重等の基準を満たしていればやってもよい	17歳以上なら可	16歳以上なら可	わからない	やるべきでない						
資料提供前	体重等の基準を満たしていればやってもよい	177	95%	2	1%	2	1%	2	1%	3	2%	186
	17歳以上なら可	88%	13%	67%	4%	13%	0%	16	0%	0%	16	
	16歳以上なら可	3	19%	12	75%	0	0%	1	6%	0	0%	16
	わからない	19	30%	1	2%	0	0%	39	62%	4	6%	63
	やるべきでない	9%	7%	0%	81%	17%	0%	22	0%	0%	22	
	後の合計	201	100%	15	100%	3	100%	48	100%	23	100%	290

*クロス集計表の見方

縦%ベースで、「資料提供前」の回答者が「資料提供後」にどのような回答に変化したか、意識変化の比率を示す。
横%ベースで、「資料提供後」の各回答者が資料提供前にどのような回答であったか、その比率を示す。

現在、16-17歳の400mL献血導入の是非が検討されていますが、あなたは高校生の400mL献血についてどう思いますか。(地域別)

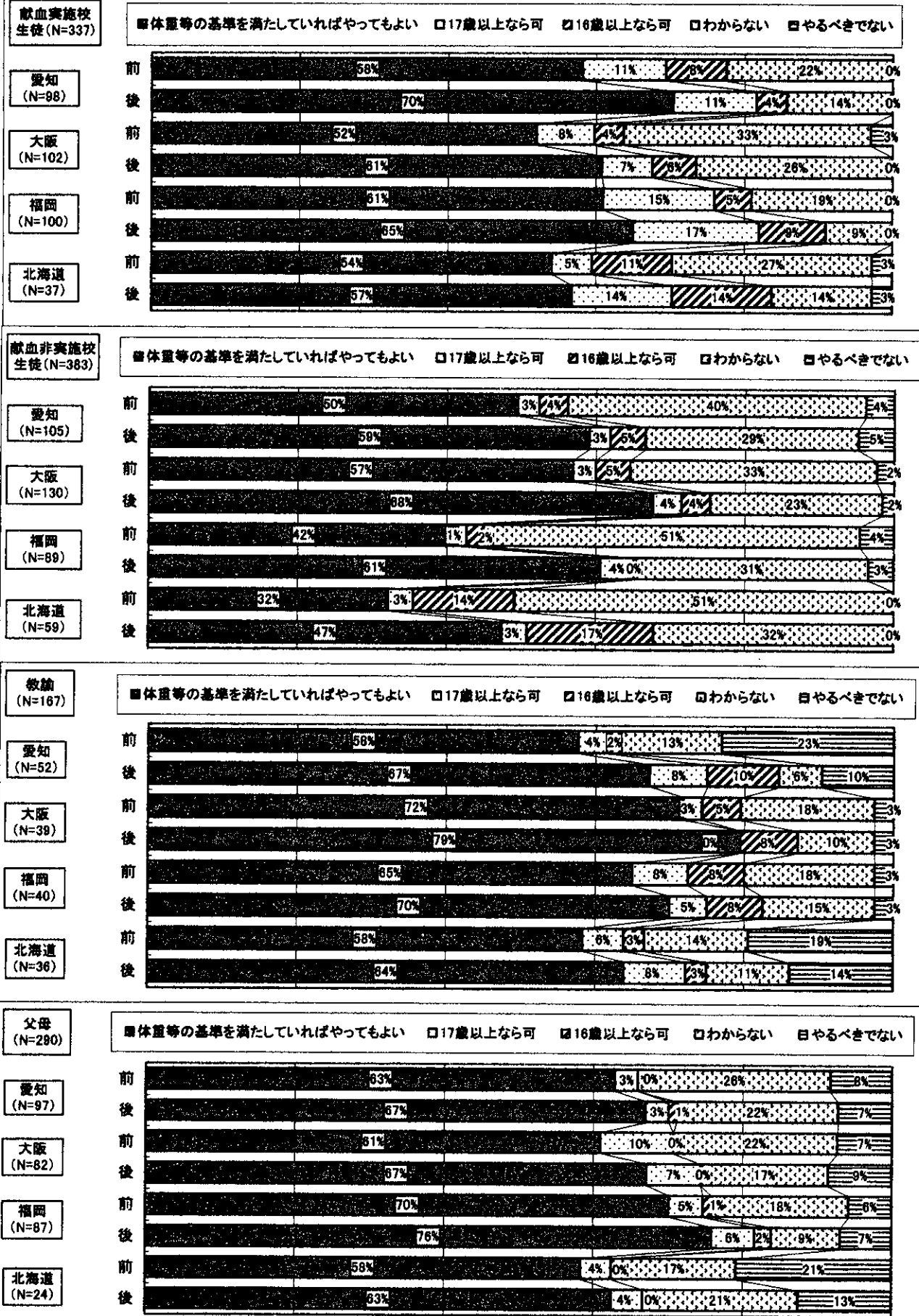
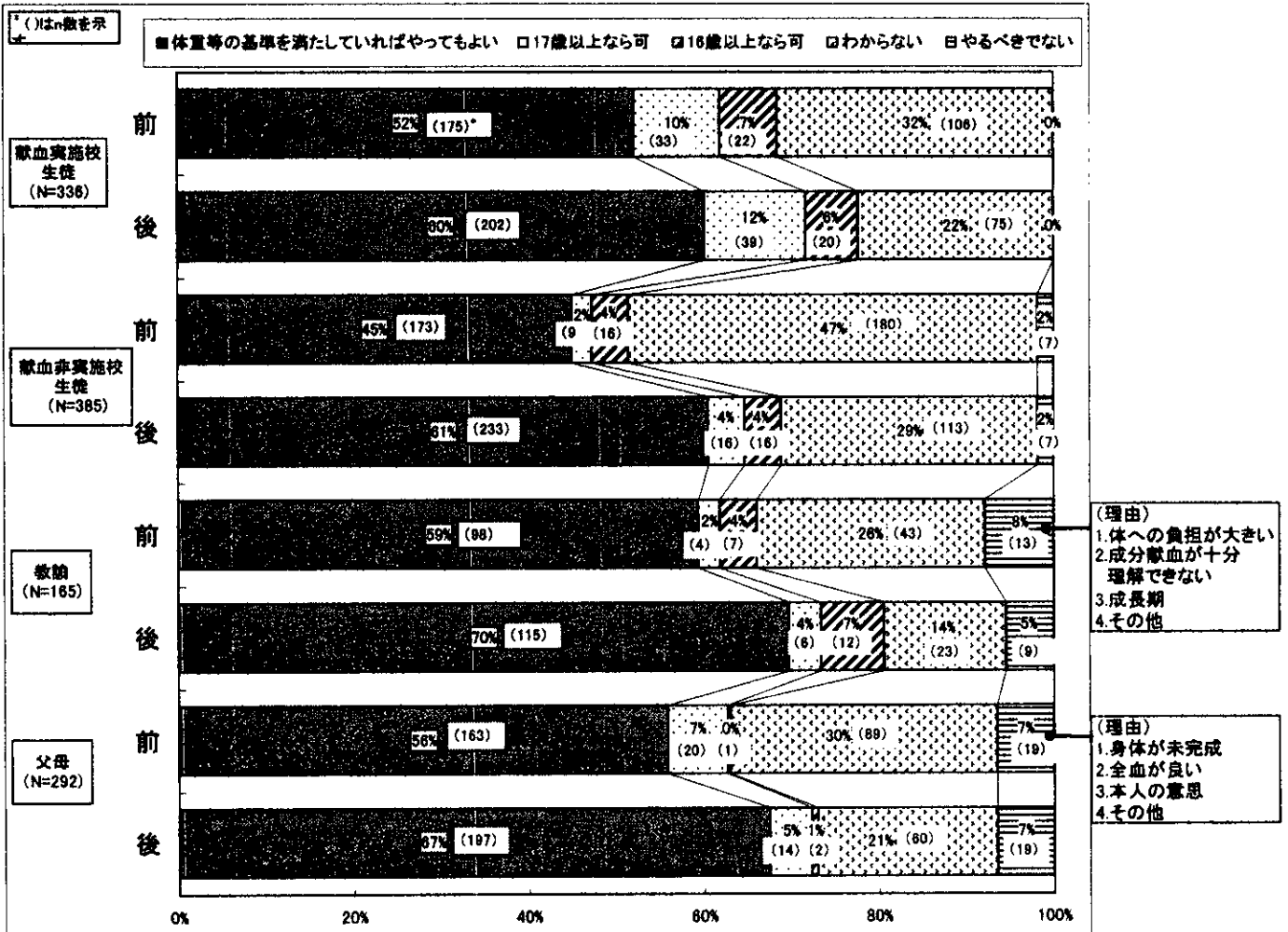


図12

現在、16-17歳の成分献血(血小板献血や血漿献血)導入の是非が検討されていますが、あなたは高校生の成分献血についてどう思いますか。



クロス集計表* <「成分献血導入の是非」における資料提供前・後の意識変化(比率)>

献血実施校生徒	資料提供前	資料提供後					前の合計					
		体重等の基準を満たしていればやってもよい	17歳以上なら可	16歳以上なら可	わからない	やるべきでない						
資料提供前	175	83%	4%	0%	8%	5%	0%	0%	175			
資料提供後	336	81%	10%	0%	11%	-	-	-	336			
17歳以上なら可	33	3%	9%	26%	79%	1%	3%	3%	9%	0%	0%	33
16歳以上なら可	22	1%	1%	67%	5%	5%	4%	-	-	-	100%	22
わからない	108	5%	23%	1%	5%	16%	73%	0%	0%	0%	100%	108
やるべきでない	7	2%	2%	3%	80%	0%	0%	-	-	-	100%	7
後の合計	336	202	100%	39	100%	20	100%	75	100%	0	0%	336

献血非実施校生徒	資料提供前	資料提供後					前の合計					
		体重等の基準を満たしていればやってもよい	17歳以上なら可	16歳以上なら可	わからない	やるべきでない						
資料提供前	173	94%	3%	2%	1%	1%	7%	4%	0%	0%	173	
資料提供後	385	70%	19%	8%	6%	6%	0%	0%	0%	100%	385	
17歳以上なら可	9	4%	44%	4%	44%	0%	0%	1%	11%	0%	0%	9
16歳以上なら可	16	2%	2%	25%	0%	1%	1%	0%	0%	0%	100%	16
わからない	180	8%	2%	0%	89%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	180
やるべきでない	7	62%	34%	9%	5%	4%	2%	103%	57%	2%	1%	180
後の合計	385	233	100%	16	100%	16	100%	113	100%	7	100%	385

教師	資料提供前	資料提供後					前の合計					
		体重等の基準を満たしていればやってもよい	17歳以上なら可	16歳以上なら可	わからない	やるべきでない						
資料提供前	165	94%	2%	1%	3%	3%	0%	0%	98			
資料提供後	165	80%	33%	8%	13%	0%	0%	4	165			
17歳以上なら可	4	1%	25%	3%	75%	0%	0%	0%	4			
16歳以上なら可	7	1%	1%	50%	0%	0%	0%	0%	7			
わからない	43	0%	0%	0%	58%	0%	0%	0%	43			
やるべきでない	13	19%	44%	1%	2%	3%	7%	19%	44%	1%	2%	13
後の合計	165	115	100%	8	100%	12	100%	23	100%	9	100%	165

父母	資料提供前	資料提供後					前の合計					
		体重等の基準を満たしていればやってもよい	17歳以上なら可	16歳以上なら可	わからない	やるべきでない						
資料提供前	292	96%	1%	1%	1%	1%	4%	2%	1%	1%	163	
資料提供後	292	79%	7%	50%	7%	5%	0%	0%	20	292		
17歳以上なら可	20	8%	40%	12%	60%	0%	0%	0%	0%	0%	20	
16歳以上なら可	1	4%	4%	86%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1	
わからない	89	0%	0%	0%	0%	1%	100%	0%	0%	0%	89	
やるべきでない	19	32%	36%	1%	1%	0%	0%	53%	60%	3%	3%	19
後の合計	292	197	100%	14	100%	2	100%	60	100%	19	100%	292

*クロス集計表の見方

横%ベースで、「資料提供前」の回答者が「資料提供後」にどのような回答に変化したか、意識変化の比率を示す。
縦%ベースで、「資料提供後」の各回答者が資料提供前にどのような回答であったか、その比率を示す。

図13

現在、16-17歳の成分献血(血小板献血や血漿献血)導入の是非が検討されていますが、あなたは高校生の成分献血についてどう思いますか。(地域別)

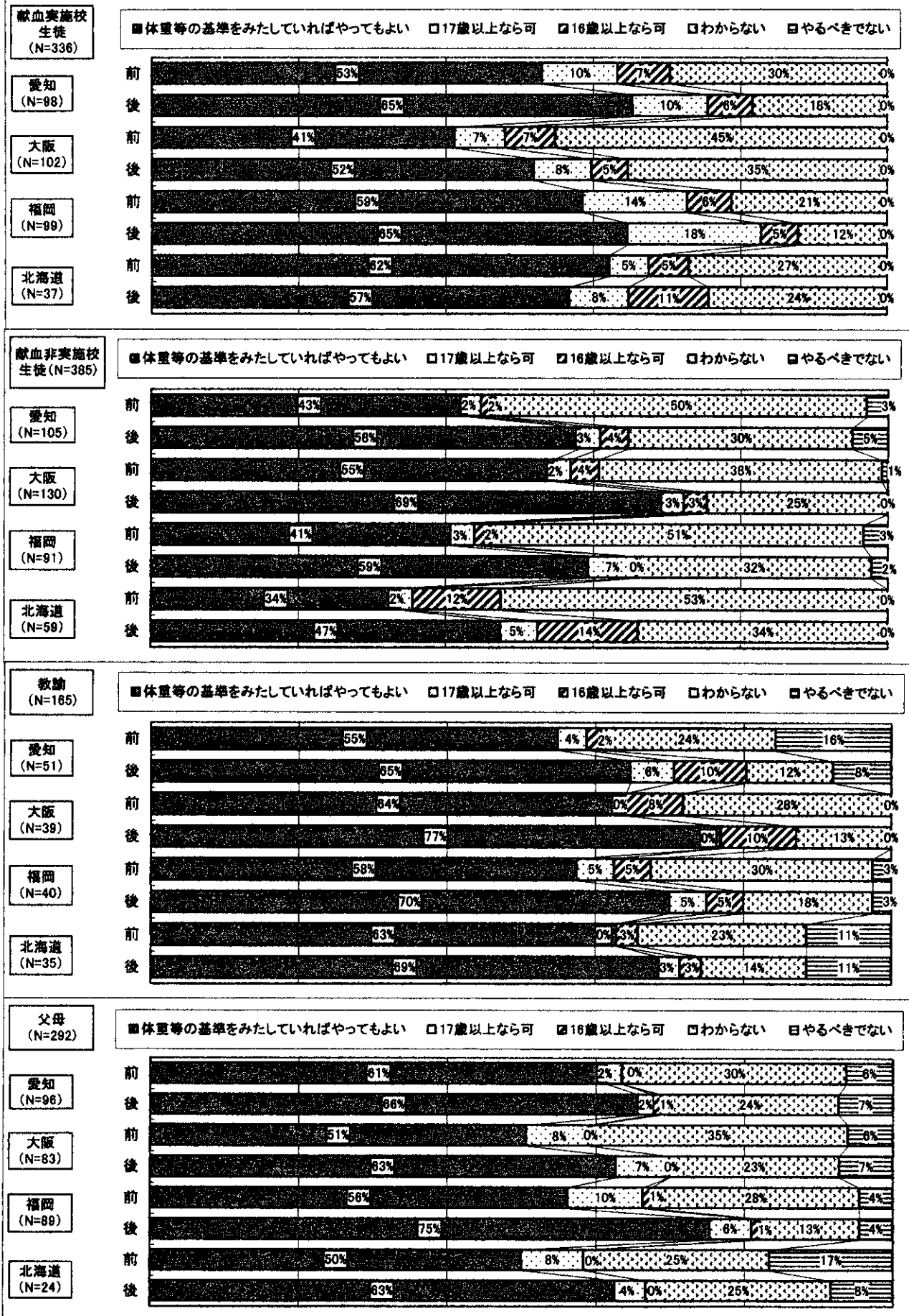
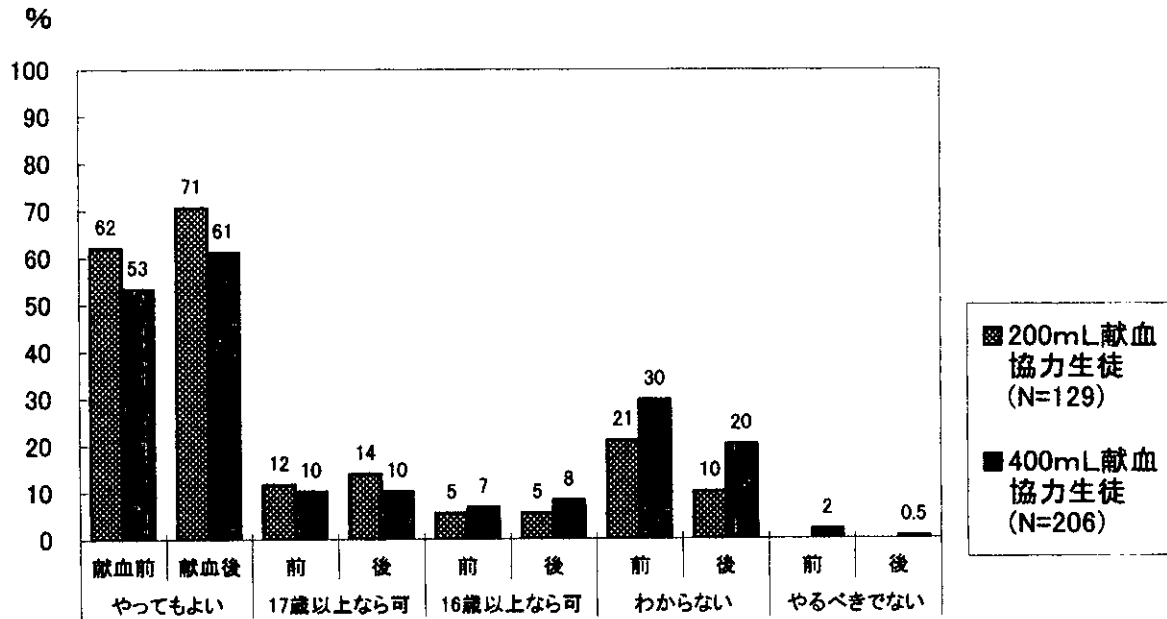


図14

400mL献血導入の意向(献血実施高校生)



成分献血導入の意向(献血実施高校生)

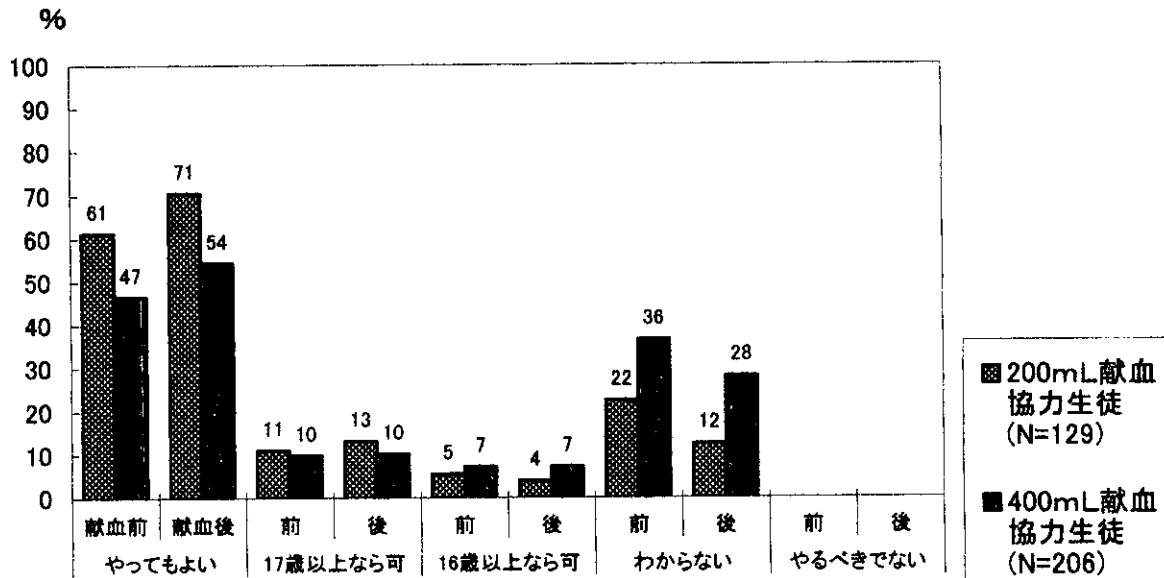


図15

厚生労働省研究班

「高校生における400mLと成分献血を推進することに関するアンケート調査」

〈以下の文章をお読みの上、アンケート裏面にお答えください〉

一 目 的

現在、血液センターでは輸血用血液の安全性を高めるため400mL・成分献血を推進しています。

1986年に国の方針として18歳以上の方を対象に400mL献血と成分献血（血液中の血小板あるいは血漿を採取して赤血球は体内に戻す採血方法）が導入されました。その目的は、血液の安全性を高め、血液の量的な確保をも可能にすることにあります。医学的には献血は出血と同じことになりますが、普通の人では出血量（献血量）が体内の血液の15%以内（体重60kgの人では720mLまで）であれば、特に身体上の問題は起こらず、それよりも少ない400mL（体内の血液量の12～13%）の献血では日常生活や健康に差し障りありません。

また、医療機関においても、400mL献血や成分献血の血液を積極的に使用するようになっているのが現状です。

血液センターにおいても、これらの献血方法を推進しており、すでに1,500万人のご協力をえております。昨年度は580万人の献血者の中で46.5%（260万人）が400mL献血、27.8%（160万人）が成分献血を占めています。200mL献血（昨年度は160万人）は年々減少しており、医療機関での使用も限られつつあります。

しかしながら、少子高齢化社会が急速に進む中で、輸血用血液の不足や献血者の減少が懸念され、若年層による400mL・成分献血の実施の必要性が指摘されるようになりました。そこで、厚生労働省の研究班では献血対象者を増やすことを目的として、現在200mLしか採血できない16～17歳の人に400mL献血あるいは成分献血を実施することの是非について、高校生やその父母・教諭等の関係者がどのように考えているのかについての調査を行っています。

平成13年度においては、高校生の集団献血（高校に献血バスが来て献血すること）の有無により、献血に対する意識の変化と、高校での集団献血が将来献血への動機付けとして機能するかどうかを調査の目的とし次のような結果を得ることができました。